

中外日報

京都本社
京都市南区東
電話 (07)
FAX (07)
ht
Eメ

コロナ終息を願い 空へアマビエ風船

御嶽教は10月28日、奈良市の御嶽山大和本宮で秋季感謝大祭を斎行し、終了後に新型コロナウイルスの終息を願って「アマビエ」の絵入りの風船を飛ばした。

大和本宮の同大祭は、5月の御嶽山木曾本宮(長野県木曾町)の春季祈念大祭、6月の大和本宮のおひかり祈禱大祭、8月の御嶽山(同県王滝村・木曾町)の雲上大御

神火祭と並ぶ四大祭りの一つ。例年は2日間だが、今年はコロナ禍で1日限りとし、遠方の参列には自粛を要請。拝殿内は席を減らして参列者は祝詞斉唱を黙読とした。

祭典は正午から2014年の噴火犠牲者らの慰霊の黙禱に始まり、御嶽山の御神火を神前に奉安。御嶽祝詞、奉幣行事に続き、斎主の井上慶山管長が祝詞を奏上。七五

三の教えの垂示、神楽奉納、焚火神事、合掌訓奉唱を行った。斎主の祝詞では最後に「辞別きて」と続けてコロナ禍の終息祈願の言葉を述べた。

管長教話ではアマビエの由来を解説し、一部商業優先の風潮もあったブームにも触れ、人間の心は「何やそれ」という驚きや印象から動く指摘。明治以来、教派神道となったものの神にも仏

御嶽教

にも祈り、様々な信仰を共に受け入れているのが御嶽教だと語った。

アマビエの風船は環境負荷の少ないものを使用し、疫病退散の祈禱済みで、教師と信徒らが一斉に飛ばした。
(武田智彦)



疫病退散を願って拝殿前でアマビエ風船を飛ばす井上管長(左端)ら